令和元年６月　－２年　生活科－

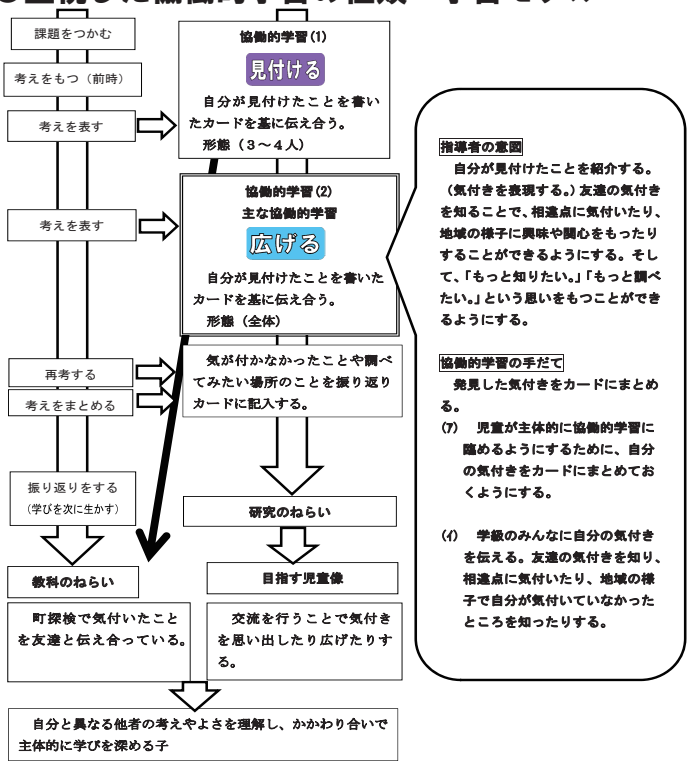
「でんえんちょうふの町のすてきを見つけよう」

○単元のねらい　町探検をする活動を通して、自分たちの生活が地域の人々や場所と深くかかわっていることに気付き、地域に親しみや愛着をもち、安全に楽しく生活することができる。

○指導計画（19 時間扱い）

1～2　田園調布にはどのような場所があり、どのような人がいるか考え、伝え合う。
3～4　町探検をして気付いたことをカードにまとめる。
5～6　友達と伝え合い、もう一度探検に行きたい場所を考える。【本時】
7　２回目の町探検の計画を立てる。
8～9　グループごとに町探検を行う。
10～14　分かったことをまとめ、発信するための準備をする。
15～18　友達や保護者に発信する。
19　分かったこと、気付いたことを話し合う。

○重視した協働的学習の種類・学習モデル



○協働的学習　広げる

《協働的学習の内容》

- 町探検に行って自分が見付けたことをカードにまとめ、友達と紹介し合うことで、共通点や相違点があることに気付かせるようにする。
- 自分が見付けたことを紹介したり、友達の気付きを知ったりすることで、地域の様子に興味や関心を高め「もっと知りたい。」「もっと調べたい。」という思いをもつことができるようにする。

《協働的学習の手だて》

- 自分が見付けた『素敵』を事前にカードにまとめることで、自分の考えをもった上で話し合うことができるようにした。
- グループで紹介し合った後、自分が伝えた『素敵』がある場所にシールを貼るようにすることで、友達がどの場所に関心をもったのかを視覚的に分かるようにした。
- 地図の前で発表させることで、写真と発表内容をつなげながら素敵だと感じたところに気付くことができるようにした。

○成果と課題　＜講師　武蔵野大学客員教授　森　富子　先生＞

◎児童が２回目の町探検に「行きたい。」と思えるような意欲をもたせることができた。
△学習計画の中に、身近にある「公共施設の見学」についても位置付けるように計画を立てる。
△ゴール（誰に伝えたいか）を教師が決めるのか児童と共に考えるのかを明確にしておくことが大事である。

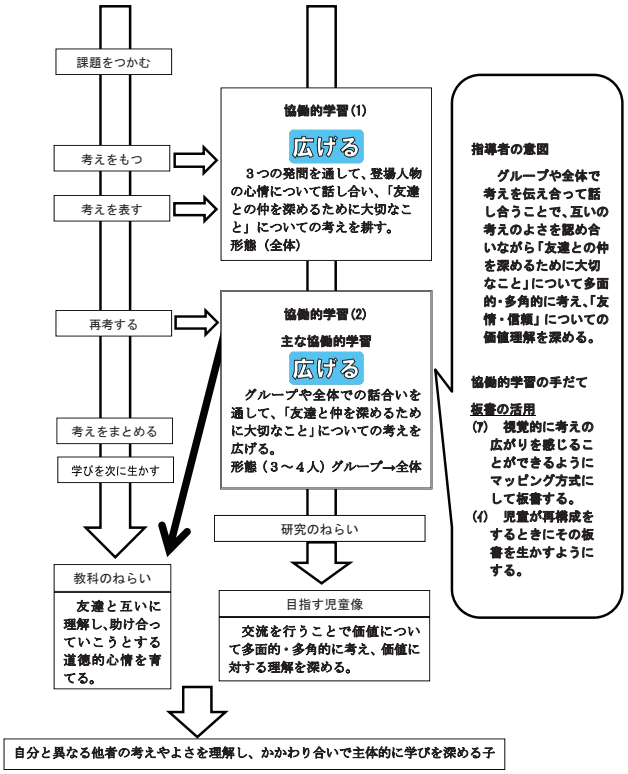
令和元年７月　－３年　道徳科－

主題名：理解し合う友達
教材名：「いいち、にいっ、いいち、にいっ」

○ねらい　ちえの気持ちを共感的に理解することを通して、友達と互いに理解し、助け合っていこうとする道徳的心情を育てる。

○協働的学習に生かす板書

○重視した協働的学習の種類・学習モデル



○協働的学習 広げる

《協働的学習の内容》

・「友達と仲を深めるためには何が大切か」という道徳的価値について、班（３、４人）で話し合う。更に『広げる』板書を工夫して全体で考えを広げ、個々の再構成に生かす。

《協働的学習の手だて》

・全体で『広げる』協働をするときに、マッピング方式にし、児童の考えが広がっていることが目で見て分かるようにする。その板書は、児童が再構成するための手だてにする。

○成果と課題　＜講師　明星大学教授　大原　龍一　先生＞

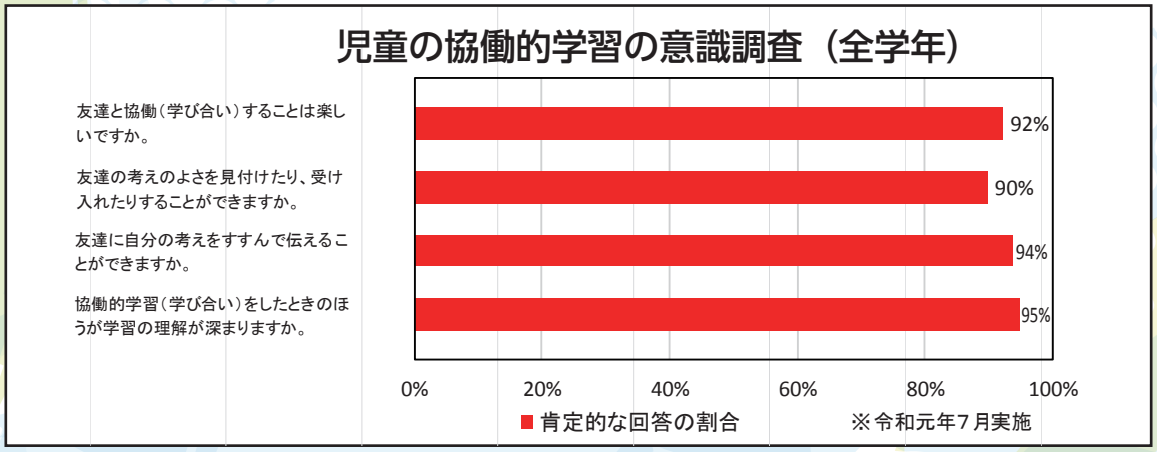
◎『ハートのバロメーター』は、思考ツールとして有効だった。特に心情が変化しているところで使うことで、登場人物の心の揺れを捉えることができた。

◎『ハートのバロメーター』は、他教科でも心の変容を表す場面で有効に活用できる可能性がある。

△児童から出た考えを教師が児童に返すことによって、考えが深まる。『広げる』板書を通して考えが広がったところで、それをじっくり見直す時間を十分に確保してから個々の再構成を行うようにすると、更によかった。

△本時で学習したことを中心とした振り返りができるようになるための手だてが必要である。

Ⅸ　成果と課題



◎平成 29 年度から本研究に取り組み、今年度の７月に協働的学習に関するアンケートを全児童に実施した。上記の４項目では、肯定的な回答をした児童が 90%以上と大変高い結果であった。また、「一人で学習するよりも、協働的学習をしたときのほうが学習の理解が深まりますか。」の項目では、95%の児童が肯定的に回答していた。

◎平成 31 年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査の児童質問紙の項目「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。」では、90.1%の児童が肯定的に回答していた。これは、東京都の平均 73.0%や全国（公立）の平均 74.1%と比べて大きく上回っていることが分かる。

⇒以上の結果から、本校の研究は児童にとって必要感があり、学びの深まりを実感させることができたといえる。

△本研究の協働的学習がより教科のねらいに迫ることができているのかを成果として捉えることにはまだ課題が残る。児童の振り返りを丁寧に見とり、更なる指導の改善につなげる評価を工夫していく必要がある。

＜御指導いただいた先生方＞

東京学芸大学教職大学院准教授　細川　太輔　先生　明星大学教授　大原　龍一　先生
武蔵野大学客員教授　森　富子　先生　目黒区立八雲小学校校長　長谷　豊　先生

＜研究に携わった教職員＞

◎研究主任　〇研究副主任　◇研究プロジェクトメンバー

校長◇茂呂美恵子　副校長◇吉野麻哉子
１年１組◇栗原　真理　２組　栗田由紀子　３組　松川　幸枝
２年１組◇寺本　悠子　２組◇藤井　傑之　３組　髙松　俊哉
３年１組◇佐藤　葉子　２組　登川　早苗　３組◇西村　麻美
４年１組　熊﨑　佳菜　２組　椎本　恭平　３組◎谷　祐伊
５年１組　大高　成友　２組◇酒井美郁子　３組　小川　万里　４組　岩野健太郎
６年１組〇小木　和美　２組　日野　宣彦　３組◇有川　佳孝
音楽　近江ちひろ　図工◇長洲　忠　家庭　岩坂　菜月
算数少人数◇佐藤　翠　算数講師　水野　玉樹　横山美登里
栄養教諭　山本　房子　養護教諭　中村麻生子

【平成３０年度】
副校長◇室伏　亜紀　◇藤倉　尊人　◇坂本　貴史　小川　里奈　邉見愛咲子　本田　愛梨

Ｘ　研究Ｑ＆Ａ

Ｑ１．協働的学習とは何ですか。	Ａ１．本校では、児童同士が交流を通して考えを広げたり、深めたりし、新たな価値を見いだす学習と捉えています。個人で考え表現するよりも、より教科のねらいに迫ることができ、ただ意見を伝えるだけでなく、同一の目的のために児童相互のコミュニケーションを通して意思を深めていく活動を協働的学習と考えています。
Ｑ２．どうして協働的学習が必要なのですか。	Ａ２．これまでの学習でも友達と考えや意見を交流する場面はありましたが、何のために話合い活動を行っているのかが明確ではない活動も見られました。児童同士がかかわり合いを通して、多様な考えに触れたり考えを確かなものにしたりしながら学びを深めるとともに、互いに高め合える関係性を育みたいと考えたからです。
Ｑ３.「協働的学習の意図を明確にする」とは、どのようなことですか。	Ａ３．児童や指導者が目的をもって協働的学習をすることです。『決める』や『まとめる』などの目的をもたせて学習します。その後、協働的学習で広げたり深めたりした考えを基に、再考する時間を設定し、学びを深めていきます。そのため、児童が主体的に協働的学習に臨むようになります。
Ｑ４.『コミュニケーション力』『思考力・表現力』『再構成力』の３要素とは何ですか。	Ａ４．３要素は、協働的学習に必要な３つの力として設定しました。３つの力が育つことで協働的学習が充実するだけでなく、学習を通してその３つの力が更に高まっていくとも考えています。３要素は協働的学習の土台であり、協働的学習を通して育てたい力でもあります。
Ｑ５．協働的学習を取り入れた授業を実践していく上で、大切にしていることはありますか。	Ａ５.「研究構想図」の目指す児童像にあるように「自分と異なる他者の考えやよさ」を理解することを大切にしています。学習場面ではもちろん、日々の生活の中で友達の意見を受け止め、そのよさを感じられるような気持ちや人間関係の育成が不可欠です。
Ｑ６．学びの振り返りで工夫していることはありますか。	Ａ６.『田小ルーブリック』を開発しました。教師にとっては指導に活用できるよう、児童にとっては協働的学習をする際の具体的な指標になるように作成しました。活用の仕方については、リーフレットＰ．８を御覧ください。